

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	アフガニスタン市民社会組織（以下、CSO）の能力を強化する。能力強化のための各種研修の実施などを通じてCSOの実務能力が育成され、CSO間の連携が促進される。
(2) 事業内容	<p>現地提携団体ACBAR (Agency Coordinating Body for Afghan Relief) 及びANCB (Afghan NGO Coordination Bureau) の2団体が、CSOに対する能力向上研修を全9回行い、現地CSO職員、地元住民、地元政府職員ら合計278人が裨益した。</p> <p>ACBARは5県（バーミヤン県、パルワン県、クンドゥーズ県、バダフシャーン県、タハール県）で全5回の研修を実施、現地CSO職員ら167人が裨益した。研修内容は、NGO法、労働法、所得税法、紛争下における人権、イスラームの見地に基づく男性と女性の権利、行動規範などの科目だった。</p> <p>ANCBは4県（カブール県、パクティア県、ナンガルハール県、ガズニ県）で全4回の研修を実施、現地CSO職員ら111人が裨益した。研修内容は、平和と紛争解決、人権と良い統治、汚職対策と政策提言などの科目だった。</p> <p>ネットワーク間の連携向上のために、ACBARとANCB両団体間で共通の評価フォームを使用し、研修参加者の声を記入してもらうなど合同で評価活動に当たった。また、両団体が専門性を高めることを目的として、組織運営能力、調整能力、会計管理能力等の向上のための研修を行うため、ACBAR及びANCB職員3人を本年6月19日～22日まで日本へ招聘し研修を実施するなど、ネットワーク間の連携向上のための活動が行われた。</p>
(3) 達成された効果	<p>当初研修計画では報告期間中に10県で10回の研修を行う予定としていたが、9県で9回の研修を行った。実際の研修が予定どおり進まなかった理由は、現地提携団体が治安情勢などを考慮して実施できるところから実施するなど柔軟に対応しているためである。</p> <p>また、当初計画では1回辺り30人が研修に参加し裨益するとの予定をしていたが、実際は1回辺り約31人が参加しており、9回の研修を通じての参加者合計数は278人だった。したがって、期待された以上の効果が挙げられたものと思われる。</p> <p>研修実施後、参加者からは非常に有益だった、参加型形式だったのが良かった、もっと長い時間かけて研修をして欲しいなどの声が評価フォームを通じて寄せられるなど、参加者からの評価も高く、現地CSOの実務能力強化に資する活動が行われたと考えられる。</p> <p>ネットワーク間の連携向上のために実施した本邦における研修を通じて、ACBARとANCBによる共同作業が円滑に行われるようになるなど成果が見られた。例えば、共通の評価フォームを使用して事業の評価を行うなど、自立して事業運営していく際に必要な実務能力及び調整能力が向上するなど、成果が見られた。</p>

<p>(4) 今後の見通し</p>	<p>本事業完了までにACBARが全34回、ANCBが36回の研修を実施する予定であるが、現在のところ、予定通り事業を完了する見込みである。ACBARは当初予定より2回分研修に遅れが見られるものの、研修要員は雇用され訓練も受けており問題ないものと思われる。また、ANCBは予定よりも1回分研修実施が進んでおり、こちらも予定通り研修を実施するものと思われる。</p>
-------------------	--